



新しい年が明けました。今年もスタッフ一同地域の皆様に愛されるクリニックであるように鋭意努力していく所存ですので、何とぞどうぞよろしくお願い申し上げます。

クリニック通信第7号が出来上がりましたのでお届けいたします。

院長ブログより

先日、日本を代表する大俳優の森繁久弥さんが96歳で大往生されました。死因は老衰だったとお聞きし、私は何か新鮮な感じを受けました。というのも最近では死亡原因のほとんどが癌や脳卒中、心筋梗塞などであり、老衰死の割合が極めて減少しているからです。



どこかの大学の先生が、理想の人生の終末はPPK(ピンピンコロリ)、でも最近では終末の多くはNNK(寝たきり寝たきり殺される)などと言っていました。皮肉たっぷりですが、本当に言い得て妙だと思います。

以前勤務していた病院で、ある朝突然救急外来から呼び出されました。それは93歳の女性で、その日の早朝に起こった激しい呼吸困難と意識混濁で搬送されたとのこと、心臓超音波の所見はなんと心室中隔穿孔でした。急性心筋梗塞により左右の心室間にある壁が壊死して穴があいてしまう病気で、唯一の救命方法は手術ですが、それ自体も非常にリスクが高いことで有名です。

私はすぐに他の医師たちとともにPCPS(経皮的人工心肺装置)を装着し、ICUに運び込みました。PCPSは心臓が非常に弱っていても全身の血液循環を維持できる、いわば究極の生命維持装置で、重症な循環器疾患の治療に非常に貢献しています。

さて彼女の全身状態はとりあえず落ち着いていましたが、超高齢である上、意識はまだ回復せず、瞳孔が少しずつ散大傾向にあるのが気がかりでした。ただでさえリスクの高いこの手術は年齢的にも極めて危険な上、何よりも意識が回復しなければ無意味でした。

次々と訪れるご家族や親戚には、非常に厳しい状態と説明して納得していただきましたが、最後にかけてしたのはまだ20歳台とおぼしき3人の女のお孫さんたちでした。彼女たちは患者さんをよほど慕っていたので、突然のことに非常に動転しており、涙声で必死に「おばあちゃん、おばあちゃん！」と呼び続

けていました。私は彼女たちにも同様の説明をしました。

すると彼女たちが私に言うのです。

「先生、それなら意識が戻れば手術をしてくださるんですか？」

「それが第一条件です。でもそれで手術をしても助かる可能性は10%ぐらいだと思いますよ。」

「わかりました。でもおばあちゃんにはもっともっと長生きしてほしいんです！！」

そしてその後30分ほど「おばあちゃん！おばあちゃん！」は続きましたが、無情にも彼女たちの願いは届かず、ほどなくして死亡宣告となりました。

確かに3人のお孫さんたちには愛する祖母の死は突然の訃報であり、本当にお気の毒でした。まだ若い彼女たちには受け入れがたいことであったとも思います。しかし敢えて批判を恐れず私見を述べさせていただければ、患者さんは93歳という年齢でも長生きされ、それほど苦しまずにあっという間にお亡くなりになった、それはそれで大往生だったのではないか？と思うのです。

一昔前ならば、高度な医療機器もなく、それほど苦しむ間もなく亡くなってしまうことがほとんどで、それはそれで大往生だったでしょう。しかし昨今の医学の進歩はそうはさせてくれなくなりました。PCPSも多くの命を救える画期的な装置ですが、心臓は助かっても結局植物状態になるようなケースも数え切れないほどあるのも事実です。

PCPSを装着することについては、1%でも救命の可能性があればそれを使用することに批判をさしはさむ余地はないのは確かです。しかしたとえそうであっても、それは結局自然の摂理に逆らっているだけなのではないか、医療を受ける権利は誰にも平等であるとはいえ、はたして90歳近くにもなった人それを使う意味があるのか？たとえ100歳でも？...私はそんな疑問を抱いてしまうことも多々ありました。

みな本当はPPKの人生を送りたいと切に願っている、老衰といわずとも心筋梗塞か何かで「じいちゃん、朝になったら冷たくなっていた」というような最期を望んでいる、にも拘わらず実際にはその意思が反映されず、挙句の果てにはNNKになってしまうことも多いのではないか？そんな印象を受けます。



ミニレクチャー 漢方薬について

当院では患者さんの治療に積極的に漢方薬を利用しています。漢方薬というと、長期間服用しないと効果が出ないとか、通常の薬に比べて効果が少ないという印象を持たれる方もいますが、それは全くの誤解です。複数の生薬の組合せで出来ている漢方薬は、その組み合わせ方や含有量は、長い歴史を経て経験的に生み出されてきたものであり、その薬理作用については西洋薬に比べてまだ未解明の部分が多いのも事実ですが、最近では徐々に科学的解明が進み、薬効の素晴らしさは欧米でも注目されています。現に日本では医師の7割以上が何らかの漢方薬を使用しています。病状にあった漢方薬を使用すると、それまで何種類もの西洋薬を飲んでも全く効果がなかった症状が急激に軽快してしまうことも珍しくありません。たとえば急性上気道炎（風邪）でも、頭痛が強く発汗がないときは葛根湯、のどが痛くて微熱、悪寒がある時は麻黄附子細辛湯、鼻水が多い時は小青竜湯、インフルエンザのような強烈な症状や高熱の時は麻黄湯、ガラガラと長引いて治りにくい時は柴胡桂枝湯、咳がひどい時は滋陰降火湯や麦門冬湯……と症状や証（東洋医学における診察所見）に応じて使い分けることにより、むしろ西洋薬よりもよほど顕著な効果がみられます。これは医療費の削減という意味でも患者さんにとって有益です。



このように素晴らしい効果を持つ漢方という治療手段に健康保険が適用されているというのは我が国の医療の素晴らしい点であるともいえます。

今月の話題 免疫力を高めましょう！

免疫とは、体内に侵入してくる細菌やウイルス等の異物から身体を守るために生来備わっている能力のことです。免疫が弱いと、風邪などの感染症にかかりやすくなります。しかし逆に過剰反応を起こすと花粉症などのアレルギーを起こします。

免疫力を高めることは、両方の害から身を守るために、そのバランス力を高めることに他なりません。以下のような方法で免疫力を高めて、風邪のはやる冬、花粉症のはやる春を乗り切りましょう。

無理のないウォーキング等、適度な運動により平均体温を上げる。

平均体温が1℃上昇すると、免疫力は約60%活性化するといわれています。

質のよい睡眠を心掛ける。

よく笑う 笑いによる脳への刺激が、免疫機能を活性化します。

作り笑いでも効果があるようです！

バランスのよい食事を摂る 特に免疫力を高めるといわれている食品があります。

ビタミンAの多いもの：レバー、ニンジン、かぼちゃ、ニラ、シュンギク、うなぎ、ほうれん草、チーズ、卵など

ビタミンCの多いもの：ブロッコリー、トマト、イチゴ、キウイ、ピーマン、レモン、みかんなど



事務スタッフのお勧めシリーズ カリフラワーソース

材料

カリフラワー	1/2 株
アンチョビ	5 枚
ニンニクみじん切り	1/2 片
エキストラバージンオリーブオイル	200ml

ゆでたカリフラワーとアンチョビ、ニンニク、オリーブオイルをミキサーに全部入れ、ペースト状になったら出来上がり！

他のゆでた野菜でもできる万能ソースです。

野菜スティックや焼いた鶏肉や魚につけて食べてください



クリニック通信のバックナンバーをご希望の方は、受付でお申し出ください。

おおかど循環器科クリニック

循環器科・呼吸器科・外科

院長 大加戸彰彦

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通7-1-13 神戸芸術センタービル内医療モール4F

TEL 078-855-9151 FAX 078-251-5033

e-mail aki-ohkado@ohkado-heart-clinic.com

HP <http://www.ohkado-heart-clinic.com>

診察時間 午前9～12時・午後4～7時 木・土曜日午後、日祝日は休診